

ストーリーの知的内容を表すメタデータ記述項目の提案 -Wikipedia 上のマンガ・小説作品記事を対象として-

両角彩子, 永森光晴, 杉本重雄
筑波大学図書館情報メディア研究科
〒305-8550 茨城県つくば市春日 1-2

E-mail: {moro, nagamori, sugimoto}@slis.tsukuba.ac.jp

概要

近年の情報技術の発展に伴い、マンガ作品の情報の共有・交換が盛んに行われるようになった。筆者らの研究室では、マンガに関する情報を統合的に扱うためのマンガメタデータスキーマを開発している。その一部に、読者が作品の内容を書き表すためのメタデータスキーマがある。本稿はマンガの知的内容を表すことを目的としているため、同じストーリーの表現手法である小説や映画も参考にする。そこで、Wikipedia 内に表れるマンガ、小説の作品記事から 100 件をそれぞれ無作為に抽出し、記述項目について調査した。これらの調査結果および目次テンプレートを参考に、読者が作品の知的内容を書き表すためのメタデータ基本セットを提案する。

キーワード:

マンガ, メタデータ, Wikipedia, Functional Requirements for Bibliographic Records: FRBR

A Metadata Element Set for Describing intellectual Content of Story- A Proposal Based on Description of Comics and Novels in Wikipedia

Ayako Morozumi, Mitsuharu Nagamori, Shigeo Sugimoto
Graduate School of Library, Information and Media Studies, University of Tsukuba
1-2, Kasuga, Tsukuba, Ibaraki, 305-8550, Japan
E-mail: {moro, nagamori, sugimoto}@slis.tsukuba.ac.jp

Abstract

Mangas, which are popular and important resource in our modern culture, are published not only in traditional printed media but also for PCs and mobile devices over networks. Metadata has crucial roles to enhance functionality to access to mangas in the networked information environment in various aspects. The goal of this paper is to discuss metadata elements required for describing intellectual content of mangas as graphic novels. In this paper, we analyzed mangas and novels in order to define the metadata elements to describe their intellectual contents as a story work. Then we defined several metadata elements and their refinements to express the common properties of the intellectual content. In this paper we propose a set of descriptive metadata elements for intellectual content of mangas based on the analysis and description templates of Wikipedia.

Keywords:

Manga, metadata, Wikipedia, Functional Requirements for Bibliographic Records: FRBR

1. はじめに

従来、マンガは紙媒体で出版するものであった。しかし、インターネットの普及に伴いパソコンや携帯端末向けの商用マンガ配信サービスや個人レベルによる作品の配信も進められている。また、ブログや Wikipedia[1]、大型通販書店のレビューやコミュニティサイトなどで、マンガ作品に関する情報の交換・共有も活発になっている。マンガを利用する人の要求の多様化に対し、図書や雑誌の書誌データや Web 上の全文検索サービスだけでは充分に対応できなくなっている。

利用者の多様な要求に応えるには適切なメタデータを用意する必要がある。マンガのためのメタデータは書誌事項のように出版後に出版物に対して付与されるものだけではなく、リソース作成時点で作家や編集者が作成するもの、読者が書いた感想やメモなど、リソースの流通過程で随時作成されるものもある。マンガのためのメタデータの適切な定義のために、記述対象であるマンガのどのような属性をどのような視点から記述するのかを明確にすること、すなわちマンガのためのメタデータのモデル化が必要である。たとえば、マンガそのものの構造、知的内容、書誌事項、権利に関わるもの、配信・再生の仕組みなどもメタデータのモデルの中にも含み得る。このような視点から筆者等の研究室では、マンガとそれに関わる情報を扱う総合的なメタデータスキーマの開発に取り組んでいる[2]。

本研究は、もともとマンガの知的内容に関するメタデータ記述のために必要な記述項目を明らかにすることを目的として開始した。はじめに、Wikipedia におけるマンガの記述内容を分析することで、マンガの知的内容に関するメタデータとして記述すべきマンガの属性を取り出すことを試みた。その過程で、マンガと同様にストーリーを持つ作品である、小説やアニメーションなども含めて分析することで、より一般化することのできる属性を取り出すことができるのではないかと考えた。そこで、Wikipedia 上のマンガと小説の作品記事を 100 件ずつ抽出し、それらの記述項目に対して調査・分析を行った。本稿では、こうした検討と分析の過程と、それをもとに提案したマンガの知的内容に関する記述項目集合について述べる。

以下、2 章では本稿におけるマンガの定義や知的内容を表すためのメタデータの先行事例について説明する。3 章では Wikipedia 上に読者が記述した作品記事を表現手法別に紹介する。4 章では Wikipedia 上の漫画と小説の作品記事がもつ記述項目に対する調査について述べ、5 章で調査結果に基づいたストーリーの知的内容を表すメタデータスキーマを提案する。

2. マンガの知的内容を表すメタデータ

2.1 マンガとは

本稿における「マンガ」の定義は、Wikipedia 内の記事「漫画」を参考にしている[3]。Wikipedia では少なくともあるメディアが「マンガ」と呼ばれるための十分条件を 4 つ挙げている。

- ・ 視覚情報を絵として提示する(文章による説明ではない)。
- ・ 絵は話の展開を動的に描写し、情報の本質部分を占める(挿絵とは異なる)。
- ・ 聴覚情報は人物のセリフは文字として、音が擬音として表現される。ただし、音楽は擬音ではなく絵やコマの行間のようなもので表現される場合が多い。
- ・ コマやフキダシなど独特の形式に沿っている。

本稿では、動画像と音声で直接提示する表現であるアニメーション、文章表現が主である絵本、時間の一瞬を切り取った表現である紙芝居や絵画などは「マンガ」に含まない。

2.2 マンガの知的内容とその表現

マンガの知的内容に関するメタデータを開発するには、マンガの知的内容の記述の実例を参考にすることが必要である。本節ではまず知的内容とその表現について考えてみたい。

本研究は、ストーリー表現を中心とするマンガを対象としている。そのため、マンガの知的内容とはマンガで表現される物語の概要、トピックのことである。知的内容は、作者が読者に対して発信するテーマやメッセージと、読者が読んで汲み取った内容という二つの側面をもつ。

前者はもともと作者の頭の中にある意図や設定である。例えば、主人公が悲しんでいることを伝えるために作者は絵や台詞を用いて表現する。こうした意図は作者や編集者が作成過程において作る企画書やおおまかな粗筋を書いたプロット、紙面のどこにキャラクターと台詞を配置するかを簡単に描いたネームなどに表れる。これらは作者以外に2次的な表現を行うことはできない。また、それを作者が2次的に表現することは稀であるので読者に直接流通することもほとんどない。

後者は読者が読み終わった後に残すメモや感想、書評などとして表される。これらの情報は流通することが半ば目的となっている。例えば、ブログに載せる感想文や本の紹介、オンライン書店の書評などは、読者の視点というフィルタを通した作品の知的内容といえる。読者本人にとっては自らの情報の整理に役立ち、他のユーザにとってはマンガの内容を間接的に知るための辞書的な役割を果たす。

2.3 マンガの知的内容を表すメタデータ

マンガ以外にストーリーを表現する手法には、小説、映画、ドラマ、絵本、紙芝居などがある。主人公やその友人のようなキャラクターが、設定された舞台の上でストーリーを展開するのはどの手法においても共通である[4]。そのため、マンガに限定せずに他のストーリーの表現手法も参考にして知的内容を表現するためのメタデータを検討することが望ましい。本節では読者がストーリーの知的内容を書き表すためのメタデータに関する先行事例および関連研究について紹介する。

2.3.1 Wikipedia 内ウィキプロジェクト漫画の目次テンプレート[5]

Wikipedia は Web 上で最も広く利用される大規模な百科事典である。Wikipedia にはマンガに関する記事に特化した「ウィキ漫画ポータル」がある。その中に、ウィキプロジェクト漫画というものがある。そこでは、マンガの作品記事にどのようなことを書くべきかを示した目次テンプレートを提案している(図 1)。「導入部分」や「脚注」、「関連項目」などは Wikipedia の辞書的な用途を反映した項目である。「概要」「あらすじ」「登場人物」「派生作品」などはマンガの知的内容を書くための項目である。また、「派生作品」を見ると「テレビアニメ」や「ゲーム」などの詳細化項目がある。本稿はこれをマンガの知的内容を表すメタデータの基本項目セットの先行研究と位置づけ、これを参考にする。

1	導入部分
2	概要
3	あらすじ
4	登場人物
5	サブタイトルについて
6	派生作品など
6.1	テレビアニメ
6.1.1	登場人物
6.1.2	スタッフ
6.2	ゲーム
7	その他
8	関連書籍
9	書誌情報
10	脚注
11	関連項目
12	参考文献
13	外部リンク

2.3.2 FRBR と FRSAR

図 1 マンガ目次テンプレート

古くから行われてきた作品の内容記述の代表としては、書誌記述における主題情報の記述がある。主題 (Subject) をいかに記述するかについては、世界各国で昔から議論されてきた話題である。それに加えて、近年のネットワークの発達による目録情報やメタデータの共有を行おうという流れから、主題典拠 (Subject Authority) をいかに行うかについての議論も活発になっている。目録レコードの機能要件を

示した Functional Requirements for Bibliographic Records (FRBR)[6]を提案した IFLA では Functional Requirements for Subject Authority Record (FRSAR)[7]の開発をすすめている。

FRBR は書誌的なデータを利用者の要求に対応付けるための枠組みとなることを意図して提案されたものである。ここでは対象となる資料そのもののモデル表現に相当する書誌的実体群を、著作 (Work)、表現形 (Expression)、体現形 (Manifestation)、個別資料 (Item) の 4 つの段階に分けて表している(図 2)。FRBR における Work はマンガに置き換えると、たとえば、「こちら葛飾区亀有公園前派出所(こち亀)」というマンガの「ハゲしい怒り! 大原部長の巻」という一話の場合、作者である秋本治の考えたその一話のストーリーや登場キャラクターなどが Work であり、それを具体的にネームや原稿という形で表現したものが Expression である。雑誌や単行本として具体化したものが Manifestation である。出版物の場合、実物としての本が1部以上複数作られることになる。この実体が Item である。たとえば、ISBN4-08-873058-5 で示される単行本「こち亀第 1 巻」の存在は Manifestation であり、書店などで実際に手に取ることのできる「こち亀第 1 巻」が 1 つの Item である。

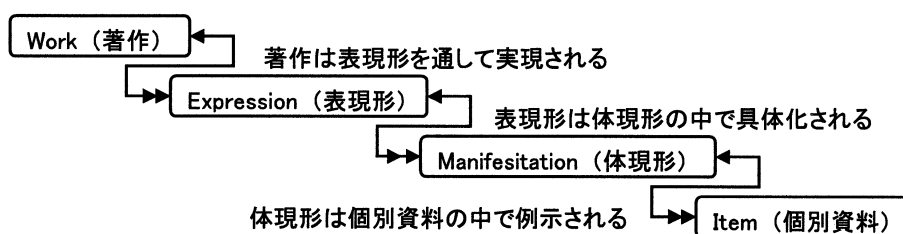


図 2 FRBR の実体関連モデル具体例

出典:書誌レコードの機能要件—IFLA 書誌レコード機能要件研究グループ最終報告[7]

FRBRの実体関連モデルは書誌レコードにおいて命名あるいは記述される知的・芸術的活動の成果に関する実体群であった。FRBR ではこの実体群を第一グループと位置づけ、他に二つのグループを定義している。第二グループは知的・芸術的内容、物理的製作と頒布、あるいは第一グループの実体の管理に責任をもつものを示しており、その実体には個人 (Person) と団体 (Corporate Body) がある。第三グループは第一グループで定義された Work の主題を表現する付加的な実体の集合を示しており、このグループには概念 (Concept)、もの (Object)、出来事 (Event)、及び場所 (Place) が含まれる。

FRSAR は 2005 年 4 月に正式に活動が始まったワーキンググループによる主題典拠の機能要件である。現時点ではドラフトの発表も行われていない構想と調査の段階であるが、(1) 目録作成における主題記述に関するユーザタスクの提示、(2) Work (作品) の subject (主題) は thema (テーマ) をもち thema は nomen (名称) をもつという実体群と、それらのタイプの提示、(3) nomen 同士の関連の提示を行うものである。著作のもつ主題の実体として、FRBR の第二グループの「Person」および第三グループの実体である「Concept」「Object」「Event」「Place」に加えて新たに「Time」を提案している。

FRBR および FRSAR は、作品のもつ知的内容をキーワードの集合を用いて主題として記述するための考え方を示している。その中で主題の実体の捉え方は本稿における知的内容の記述項目の基本概念として参考にできる[8][9][10]。一方、主題を記述するためのキーワードをいかに統制するかなどの問題をはじめとする記述方法も活発に議論されているが、本稿では範囲外とする。

3. Wikipedia 上のストーリー作品の知的内容を表したメタデータ記述

Wikipedia はマンガや小説などの作品に関する記事が多数含まれている。こうした記事は作品に関

するメタデータでもある。これらの記事の記述内容を見ることで、知的内容として、作品のどのような属性を記述すればよいのかを検討できる。

3.1 マンガの知的内容記述

2.3.1 節において述べた目次テンプレートが作品記事を記述するための一般的項目として用意されたものであるのに対して、Wikipedia 上のマンガ作品記事の目次は実際に作品記事の記述に必要とされた項目といえる。本研究では、Wikipedia の「日本のマンガ作品一覧」に登録されている 2467 件の作品タイトルから、目次が付与されかつ小説など他作品のマンガ化でないもの 100 件の記事を、疑似乱数を用いて無作為に抽出し、それらの目次項目を確認した。作品記事の例のいくつかを紹介しながら記述内容の特徴について述べる。

表 1 は、すでに連載を終了している「ドラえもん」の記事の目次と、ウィキプロジェクト漫画の目次テンプレートとを比較したものである。記事の目次大項目 17、小項目 23 のうち、テンプレートに沿って書かれているものは大項目 7、小項目 1 である。使われなかった項目のうち、「1 導入部分」については目次項目として載せられていないが簡単な記述が掲載されていた。また、「6.1.1 テレビアニメ」については、目次ではなく曖昧さ回避機能の案内による別記事参照へのリンクづけが行われていた。目次テンプレートのうち使われていない大項目は 5 つであった。ドラえもん記事の目次でアレンジされ新たに作られた目次項目は大項目 10、小項目 6 であった。また、「4 登場人物」の記事本文は登場人物の記事へのリンクが参照されているのみであった。

次に連載中のマンガ「王家の紋章」という少女マンガの作品記事を見ると、「1 概要」「2 あらすじ」「3 登場人物」「3.1 古代」「3.2 現代」「4 派生作品」「4.1 CD 版」「5 注」「6 外部リンク」が全てであり、その数はわずかに大項目 6、小項目 3 である。一方で同じ程度の巻数が発行されている「ONE PIECE」については、大項目 14、小項目 9 である。また、「名探偵コナン」については調査時点(8月)では大項目 20、小項目 38 と膨大な量の記事が記述されていた(10月現在は大項目 16、小項目 40)。他にはひとつの作品記事に収めるには各項目のもつ情報量が膨大なために、項目を別の記事という形で新たに作成し、作品記事に対して入れ子構造をもたせたものもある。

このようにマンガ作品の記事は様々なバリエーションをもっていることがわかる。テンプレートに代表される項目のほかにもある程度共通する項目がある可能性や、記事によっては使われない項目がある可

表 1 「ドラえもん」記事目次と目次テンプレートとの比較

ドラえもん記事目次	目次テンプレート	使われなかった項目
1 概要	11.2 概要	11.1 導入部分
2 作品世界と作風の特徴		11.3 あらすじ
3 作中の時代設定		11.5 サブタイトルについて
4 登場人物	11.4 登場人物	11.6.1 テレビアニメ
5 ひみつ道具		11.6.1.1 登場人物
6 大長編ドラえもん		11.6.1.2 スタッフ
6.1 短編との違い		11.7 その他
6.2 作品一覧		11.8 関連書籍
7 評価について		11.12 参考文献
8 世界への紹介		
9 ドラえもん文庫		
10 書籍		
10.1 連載誌	11.9 書誌情報	
10.1.1 雑誌		
10.2 単行本		
11 幻のテレビ番組企画		
12 ドラえもん関連		
13 ドラえもんに関する豆知識		
14 関連商品	11.6 派生作品など	
14.1 ゲーム	11.6.2 ゲーム	
15 関連項目	11.11 関連項目	
16 脚注	11.10 脚注	
17 外部リンク	11.13 外部リンク	

能性、多くの記事で詳細化された項目(小項目)が作られる可能性もある。目次項目の詳細化や簡略化、項目名の変更もしくは行われているため、目次テンプレートは実際には基本概念や指針としてのみ存在し、執筆者はテンプレートとしては用いていないように見える。

3.2 マンガ以外のストーリー作品の知的内容記述

マンガ以外のストーリー表現として小説や映画などがある。以下では、マンガと同じように Wikipedia 内にウィキポータルをもつ表現手法の「文学」「アニメ」「テレビドラマ」の記述について調べた。

● 小説(文学)

ウィキ文学ポータルに登録されている作品記事は、小説のほかに詩や評論、戯曲や古典なども含まれ、日本の文学以外も登録されている。ウィキ漫画ポータルのように作品の一覧が作成されていないため、登録されている文学の作品記事の全体の件数は不明である。また、マンガのような目次テンプレートは作られていない。ここでは、「日本の小説家一覧」に登録されている 1011 件の作家記事からリンクされている作品記事のうち、小説作品に関する記事且つ目次を持ち、他媒体の作品の小説化であることが明らかであるものを除いた全 472 件を取り出した。ただし、戯曲や詩歌、ライトノベルに関する記事は除外した。この作品タイトルから擬似乱数を用いて無作為に 100 件を抽出し記事の目次項目の特徴について述べる。

小説記事は作品名のみを作家の記事に記述し、作品そのものの記事が存在しないことが多い。作品記事が作られている場合でも、作家によって記事の量にばらつきがある。例えば、日本文学作家のなかでも有名な川端康成や三島由紀夫は作られている記事の殆どの目次が「1 概要」「2 あらすじ」「3 関連項目」「4 外部リンク」の 4 項目しかなかった。一方で、田中芳樹や小野不由美のようなファンタジーや SF 作家の作品には 40 を超える目次が付与されている。作品種別によって記事本文の量に差があることが特徴である。

● アニメ

ウィキアニメポータルに登録されているアニメは、日本の作品と海外の作品とに分けられ、更に日本のアニメは「テレビアニメ」「アニメ映画」「OAV(オリジナルアニメビデオ)」「Web アニメ」の 4 つに分かれる。ここでは「テレビアニメ」について述べる。

アニメの作品記事は共通の目次テンプレートをもっている(図 2)。マンガと違い、スタッフに関する項目が重要視されていること、主題歌や挿入歌、放送局、放送話リストがある。記事の記述を見ると、概ね目次テンプレートどおりであり、ほとんどに「スタッフ」「主題歌」「各話リスト」「放送局」が記述されている。しかし、「あらすじ」の記述がない記事は多数あった。また、「登場人物」については人物そのものよりも、併記される声優の記述に重点をおく記事が多かった。アニメの知的内容というよりは、関わったスタッフやそれに関する情報に重点がおかれているといえる。そのため、本稿ではアニメに関する記事について以降の章では扱わない。

● テレビドラマ

ウィキドラマプロジェクトには「あらすじ」「キャスト」「スタッフ」「主題歌・挿入歌」「ロケ地」「サブタイトル」「関連項目」「参考文献」「外部リンク」の項目から必要なものを選んで使う目次テンプレートがある。

1	概要
2	あらすじ
3	登場人物
4	用語
5	スタッフ
6	主題歌
6.1	オープニングテーマ
6.2	エンディングテーマ
6.3	挿入歌
6.4	オープニングテーマ
6.5	オープニングテーマ
6.6	エンディングテーマ
7	各話リスト
8	放送局
9	派生作品など
10	その他
11	外部リンク

図 3 アニメ目次テンプレート

テレビドラマは、2000 年以前の作品に関しては、視聴率の高かった人気作品以外はテンプレートに近い(またはより簡略)の記述のみのもが多い。近年の作品は、記事の内容はある程度充実しているが「あらすじ」の記述が短く、ほとんど「放送データ」や「スタッフ」、放送局に関する項目であった。また、テンプレートに作品の「登場人物」の項目がないことからわかるように「登場人物」に関する記述はほとんどなく、どの人物をどの俳優が演じたかの記述が大半であった。そのため、アニメと同様、以降の章ではテレビドラマは扱わない。

3.3 FRBR を用いたマンガの知的内容記述

筆者らの研究室では、「書誌的事項」「構造表現」「知的内容表現」の 3 つの視点からマンガに関する総合的なメタデータスキーマモデルについて研究している。野村による研究[11]は、マンガ作品そのものと Wikipedia 内のマンガ作品記事の本文中において表現される情報の枠組みを提案したもので、特に知的内容に重点を置いた。Wikipedia の冒頭記述および「概要」と「あらすじ」の本文記述から単語を取り出し、それらと FRBR の第三グループ実体との対応づけを行った。その結果、マンガ作品と Wikipedia の本文には「Person」と「Object」に関する情報やキーワードが多数出現し、「Concept」「Event」「Time」「Place」は少数のキーワードで表されるという結果を得ている。

4. ストーリーの知的内容を表すために必要なメタデータ記述項目の調査

4.1 調査目的

これまでの調査において、Wikipedia の当該プロジェクトで用意された目次テンプレートがそのまま使われている記事は確認できなかった。また、ウィキ文学ポータルでは目次テンプレートそのものが用意されていなかった。そこで、Wikipedia に記述された作品記事を知的内容記述、その目次項目は知的内容の端的な記述と位置づけ、作品記事中の目次項目を収集し分析した。調査の目的は、(1)目次の項目の数、(2)複数の記事で共通する項目、(3)出現頻度の高い目次テンプレートの項目、(4)目次テンプレートでは足りない項目、(5)マンガ目次テンプレートで省略されやすい項目、(6)目次テンプレートで詳細化されやすい項目の 6 つをマンガと小説において明らかにすることである。その調査結果を元にしてストーリーの知的内容を記述するためのメタデータ基本セット提案する。これについては 5 章で詳細に述べる。

4.2 調査の方法

調査の対象は、3 章で挙げた作品表現手法のうち、「マンガ」「小説」の作品記事に付与されている目次である。本稿では、目次の分析をサンプリング調査によって行った。マンガと小説の作品記事をそれぞれ無作為に 100 件抽出し、カテゴリ別、全体の両方で集計し傾向をみた。各記事からの特徴の抽出方法を以下に示す。

- (1)目次の項目数：マンガと小説それぞれから抽出した記述項目を、全体、大項目のみ、小項目のみの 3 種類の数を出し、それぞれの 1 記事あたりの平均記述項目数を特徴データとする。
- (2)複数の記事で共通する項目：記事に使われている記述項目のうち 2 回以上出現した項目とその数を提示する。また出現頻度を提示する。
- (3)出現頻度の高い目次テンプレートの項目：2 回以上出現した記述項目を目次テンプレートの項目でグルーピングし、記述項目数を提示する。その際、同じ項目名を持ちながら利用用途が違うものについては利用用途に従いグループを分けて集計する。

(4)目次テンプレートでは足りない項目：(3)を行う際に、どの目次テンプレート項目にもグルーピングでなかった記述項目を提示する。

(5)目次テンプレートで省略されやすい項目：(3)の結果を用いて属する記述項目が極めて少ない目次テンプレートの項目を提示する。

(6) 実際の作品記事の目次で詳細化されやすい目次テンプレートの項目：多くの小項目をもつ大項目の割合を提示する。

4.3 調査の結果

● マンガ

(1)目次の項目の数

目次の項目数は合計で 1594、そのうち大項目は 766 件 241 種類であった。1 記事あたりの平均項目数は 15.94 であり大項目のみの平均は 7.66 であった。この数は目次テンプレートの大項目数の 58.9%である。

(2)複数の記事で共通する項目

表 2 はマンガの作品記事に使われている目次項目のうち 2 回以上出現したものを回数の多い順にならべたものである。2 回以上出現した項目は合計で 580 個、56 種類であり全体の 76%にあたる。

表 2 マンガ作品記事の記述項目中 2 回以上出現したもの

項目名	出現回数	項目名	出現回数	項目名	出現回数
概要	76	書籍	5	登場キャラクター	2
登場人物	75	その他	5	関連事項	2
外部リンク	64	OVA	5	既刊一覧	2
あらすじ	47	漫画	5	収録作品	2
関連項目	45	主要登場人物	4	書誌情報等	2
ストーリー	27	CD	4	豆知識	2
単行本	21	小説	4	余談	2
脚注	20	主な舞台	4	スタッフ	2
主な登場人物	12	用語解説	4	ゲーム作品	2
書誌情報	12	用語集	4	コミック	2
アニメ	12	物語	3	ドラマ	2
作品概要	11	サブタイトル	3	演劇	2
用語	10	OVA 版	3	関連商品	2
テレビアニメ	8	コミックス	3	実写映画	2
ゲーム	7	ドラマ CD	3	主題歌	2
テレビドラマ	7	ラジオ	3	世界観	2
映画	7	前後番組の変遷	3	設定	2
アニメ版	7	舞台	3	登場メカ	2
参考文献	6	キャラクター	2	総計	580

(3)出現頻度の高い目次テンプレートの項目

2 回以上出現した記述項目に対して目次テンプレートを元にグルーピングしたものが表 3 である。一番多かったのは「派生作品」で、23 種類の項目が属し、全体の 16.7%を占めた。次が「登場人物」で、5 種類の項目が属し、全体の 16.4%であった。「概要」は 2 項目が属し、全体の 15%であった。「あらすじ」

は3項目が属し、全体の13.3%であった。

(4)目次テンプレートでは足りない項目

表3の薄く網掛けされているセルは、目次テンプレートのどれにも分類できず、新たにカテゴリを設けた項目である。「設定・用語」と「トリビア」の2つで、それぞれ5.3%、0.7%であった。

(5)マンガ目次テンプレートで省略されやすい項目

表3の濃く網掛けされた白文字のセルは、目次テンプレートにありながら使われていない項目である。「導入部分」と「関連書籍」の2つで、今回の調査では両方とも0件であった。

(6)実際の作品記事の目次で詳細化されやすい目次テンプレートの項目

小項目は828項目あり、その内訳は、「登場人物」の詳細項目が366個で小項目全体の44.2%であった。「派生作品」の詳細項目は347個で小項目全体の41.9%であった。この2つで小項目全体の約85%を占めた。

表3 マンガ作品記事の記述項目中2回以上出現したもののマンガ目次テンプレートへの対応付け

項目名	数	テンプレート	内訳	割合(%)	項目名	数	テンプレート	内訳	割合(%)			
アニメ	12	派生作品	97	16.7	あらすじ	47	あらすじ	77	13.3			
テレビアニメ	8				ストーリー	27						
ゲーム	7				物語	3						
テレビドラマ	7				外部リンク	64	外部リンク	64	11.0			
映画	7				関連項目	45	関連項目	47	8.1			
アニメ版	7				関連事項	2						
CD	4				単行本	21	書誌情報	44	7.6			
OVA	5				書誌情報	12						
小説	4				書籍	5						
漫画	5				既刊一覧	2						
OVA版	3				収録作品	2						
コミックス	3				書誌情報等	2						
ドラマCD	3				用語	10	設定・用語	31	5.3			
ラジオ	3				主な舞台	4						
前後番組の変遷	3				用語解説	4						
スタッフ	2				用語集	4						
ゲーム作品	2				舞台	3						
コミック	2				世界観	2						
ドラマ	2				設定	2						
演劇	2				登場メカ	2						
関連商品	2				脚注	20				脚注	20	3.4
実写映画	2				参考文献	6				参考文献	6	1.0
主題歌	2				その他	5	その他	5	0.9			
登場人物	75	登場人物	95	16.4	豆知識	2	トリビア	4	0.7			
主な登場人物	12				余談	2						
主要登場人物	4				サブタイトル	3	サブタイトルについて	3	0.5			
キャラクター	2						導入部分	0	0.0			
登場キャラクター	2						関連書籍	0	0.0			
概要	76	概要	87	15.0	総計	279		580	100			
作品概要	11											

● 小説

(1) 目次の項目の数

目次の項目数は合計で 919、そのうち大項目は 527 件 170 種類であった。1 記事あたりの平均項目数は 9.19 であり、大項目のみの平均は 5.27 であった。この数は、目次テンプレートの大項目数の 40.5%である。

(2) 複数の記事で共通する項目

表 4 は小説の作品記事に使われている目次項目のうち 2 回以上出現したものを回数の多い順にならべたものである。2 回以上出現した項目は合計で 401 個、44 種類であり、全体の 76%にあたる。

(3) 出現頻度の高い目次テンプレートの項目

2 回以上出現した記述項目に対して目次テンプレートを元にグルーピングしたものが表 5 である。一番多かったのは「あらすじ」で、2 種類の項目が属し、全体の 17.2%を占めた。次いで「派生作品」には 15 種類の項目が属し、全体の 16.7%であった。「登場人物」は 2 項目が属し全体の 15.5%であった。「概要」はその 1 項目のみで全体の 11.7%であった。また、「関連作品」の項目は 3 件あったが、記事本文を確認したところ、マンガ目次テンプレートにおける「関連書籍」の意味で使われているのが 2 件、「派生作品」の意味で使われているのが 1 件であった。そのため、ここでは意味別にグルーピングした。

(4) 目次テンプレートでは足りない項目

表 5 の薄く網掛けされているセルは、目次テンプレートのどれにも分類できず、新たにカテゴリを設けた項目である。テンプレートのどれにも属さなかった項目は「解説」「設定・用語」「トリビア」と「評価」の 4 つで、それぞれ 4.0%、1.0%、0.7%、0.7%であった。

(5) マンガ目次テンプレートで省略されやすい項目

目次テンプレートにありながら使われていない項目は「導入部分」と「サブタイトル」の 2 つであった。今回の調査では両方とも 0 件であった。

(6) 実際の作品記事の目次で詳細化されやすい目次テンプレートの項目

小項目は 392 項目あり、その内訳は「派生作品」の詳細項目が 196 個で小項目全体の 50.0%を占めた。「登場人物」の詳細項目は 128 個で小項目全体の 32.7%であった。この 2 つで小項目全体の約 82.7%を占めた。

表 4 小説作品記事の記述項目中 2 回以上出現したもの

項目名	出現回数	項目名	出現回数	項目名	出現回数	項目名	出現回数
登場人物	56	書籍情報	9	ドラマ CD	3	ラジオドラマ	2
あらすじ	53	映画版	6	関連作品	3	映画化	2
概要	47	主な登場人物	6	作品リスト	3	各巻題名	2
関連項目	39	漫画版	6	作品背景	3	既刊一覧	2
外部リンク	27	映像化作品	5	出版履歴	3	作品	2
ストーリー	16	出版経緯	5	書誌情報	3	作品解説	2
テレビドラマ	14	映像化リスト	4	単行本	3	収録作品	2
映画	12	解説	4	評価	3	書籍	2
その他	10	出版	4	CD	2	小説	2
脚注	10	漫画	4	コミック	2	兵器	2
参考文献	9	エピソード	3	ドラマ	2	歴史	2
						総計	401

表 5 小説作品記事の記述項目中 2 回以上出現したもののマンガ目次テンプレートへの対応付け

項目名	数	テンプレート	内訳	割合(%)	項目名	数	テンプレート	内訳	割合(%)			
あらすじ	53	あらすじ	69	17.2	書籍情報	9	書誌情報	33	8.2			
ストーリー	16				出版	4						
テレビドラマ	14	派生作品	67	16.7	作品リスト	3				外部リンク	27	6.7
映画	12				出版履歴	3						
映画版	6				書誌情報	3						
漫画版	6				単行本	3						
映像化作品	5				各巻題名	2						
映像化リスト	4				収録作品	2						
漫画	4				既刊一覧	2						
ドラマ CD	3				書籍	2						
CD	2				外部リンク	27						
コミック	2				出版経緯	5	解説	16	4.0			
ドラマ	2				解説	4						
ラジオドラマ	2				作品背景	3						
映画化	2				作品	2						
小説	2				作品解説	2	その他	10	2.5			
関連作品	1	その他	10									
登場人物	56	登場人物	62	15.5	脚注	10	脚注	10	2.5			
主な登場人物	6				参考文献	9	参考文献	9	2.2			
概要	47	概要	47	11.7	兵器	2	設定・用語	4	1.0			
関連項目	39	関連項目	39	9.7	歴史	2						
					エピソード	3	トリビア	3	0.7			
					評価	3	評価	3	0.7			
					関連作品	2	関連書籍	2	0.5			
					総計	401		401	100			

4. 4 考察

これまで述べてきた調査の結果から、ウィキプロジェクト漫画で用意された目次テンプレートと実際に記述されたマンガ作品記事の目次項目にはずれがあることがわかった。特に、「設定・用語」は「その他」に記述できるような項目ではない。また、項目の出現度も 5.3%と「脚注」や「参考文献」よりも高かった。小説においても 1.0%出現しており、ストーリーものの内容を記述する際に必要な要素であるといえる。マンガと小説両方に共通して多かった項目は「派生作品」であった。マンガはアニメ化に関する記述がもっとも多く、小説は映画やドラマなどの実写映像化作品に関する記述が多くみられた。表現手法別に見てみると、マンガは「登場人物」に関する記述が多かった。大項目ではほぼ必須項目となっており、小項目も派生作品より高い割合を占めていた。マンガでは「登場人物」のようなキャラクターに関する情報が大きな役割をもつと考えられる。一方小説は「あらすじ」に関する記述が多く、大項目では一番多い項目数であった。小説では「あらすじ」が重要な役割をもつと考えられる。また、作品研究や翻訳に関する項目もみられた。これらは現時点での小説に特化した項目として提案できるものである。しかしながら、マンガも研究や翻訳が近年盛んになりつつあるため、将来的にはマンガにも適用できる項目と考えてよい。今回の調査の結果からは、重要視される項目という観点ではマンガと小説それぞれに特徴がみられたが、マンガと小説の知的内容を記述する際に必要な項目自体には差がなかった。記述項目数という観点で

見た場合、大項目 7~8 個、小項目 6 個程度が平均であった。作品によって項目数はばらつきがあり、多いものは大項目 20 個、小項目 38 個というものもあった。作品の連載が長くなると、記述の内容もそれに伴って長くなる場合がある。またそれ以外の要因もありうる。どうした場合に記述項目を増やすかはこれからの検討課題である。

5. ストーリー作品の知的内容を表すために必要なメタデータ記述項目の提案

5. 1 調査結果に基づくメタデータ記述項目の要件

マンガのための目次テンプレートとして提案されている項目と実際の記事の項目にははずれがあった。マンガ目次テンプレートは、提案された項目にない項目を使っている作品記事がある程度存在するため、含まれる項目セットに不足があるということになる。

また、目次テンプレートはあくまでも辞書としての Wikipedia の記事に特化したものであることも考慮しなくてはならない。たとえば、「参考文献」「関連項目」「外部リンク」はそれぞれ独立した目次項目として存在しているが、目次テンプレートの項目をグルーピングすると同じ「参考情報」に属する。特に「関連項目」と「外部リンク」は参照先が Wikipedia 内の記事かそれ以外かの違いだけである。これらの項目は、メタデータ基本セットを作る際には「参考情報」の詳細化項目として位置づけることになる。

今回の調査で抽出した目次項目には 2.3.2 節で挙げた FRBR・FRSAR が提案している主題表記のために使える項目は「設定・用語」「舞台」「登場メカ」がそれぞれ「Concept」、「Time」「Place」、「Object」を表しているのみであった。また、マンガの「ジャンル」のような項目は、目次項目からは抽出できなかった。こうしたキーワードによる情報は、Wikipedia では「Infobox」というツールを用いて記述されることがある。しかし、この Infobox が記述されたマンガ作品記事はあまり多くない。しかし、これらの情報を組み合わせることでより詳細にストーリー作品の知的内容を記述できるようになるであろう。

5. 2 メタデータ記述項目の提案

これまでの考察から、読者がマンガの内容を書き表すためのメタデータ基本エレメントセットを提案する。上の調査で抽出した記述項目を、目次テンプレートを考慮せずに、グルーピングしなおした。表 6 はその結果である。同じ種類の情報を扱う項目をまとめ、10 個のグループに分けた。ここでは、「評価・受賞」を除き、出現の割合が 1%を切らないように分類した。次に、グルーピングの結果を「基本項目」、それに属する目次項目を「詳細化項目の例」とし、それらと FRBR の第三グループ実体群、Fiction Finder[12] で使われているメタデータエレメントセットとを対応付けた(表 7)。

「設定・用語」「舞台」「登場メカ」を詳細化項目の例に採用したのは、主題記述のメタデータと対応付けた際に、それぞれ「Concept」、「Time」「Place」、「Object」を表していたからである。なお、Fiction Finder とは OCLC が提供しているフィクションを対象とした検索システムである。本をジャンルやキャラクターから検索したり、同一作品の翻訳版を紐付けて結果に表示したりする機能をもっている。その機能は FRBR の第一グループを実装することで実現している。

表 6 グルーピングの結果

グループ名	内訳	割合(%)
参考情報	194	19.8
派生作品	164	16.7
登場人物	157	16.0
あらすじ	146	14.9
概要	134	13.7
書誌情報	80	8.2
解説	46	4.7
設定・用語	35	3.6
自由記述	22	2.2
評価・受賞	3	0.3
総計	981	100.0

表 7 結果の対応付け

基本項目	詳細化項目の例	第三 G	F. Finder	基本項目	詳細化項目の例	第三 G	F. Finder
概要				派生作品	アニメ		
あらすじ	エピソード	第三 G 全部	Summary		映画		
登場人物		Person	Characters		テレビドラマ		
評価	作品研究		Award		小説		
設定・用語	用語				ゲーム		
	設定	Concept	Settings	ラジオ			
	舞台	Place, Time	Settings	訳		Language	
	登場メカ	Object				Edition	
			Genres	参考情報	関連書籍		
			Audience		参考文献		
解説				書誌情報	サブタイトル		Title など
自由記述	トリビア				単行本		

対応付けの結果をみると、今回目次項目から抽出した基本セットでカバーできていないのは、Fiction Finder の「Genre (ジャンル)」と「Audience (利用対象者)」であった。しかし、それ以外の Fiction Finder のエレメントは全て対応付けることができた。この結果から、今回提案したメタデータの基本セットは、小説作品の検索の際にもある程度利用できるかと期待できる。一方で、FRBR の第三グループへの対応付けは「登場人物」と「Person」以外はほとんどできなかった。これらの記述は 3.3 節で述べたように、「あらすじ」の本文中に現れる 5W1H 情報に含まれている。

6. おわりに

これまでに、Wikipedia 上のマンガ・小説作品記事を対象とした調査によってマンガ作品の内容を書くために準備された項目と実際に読者が記述している項目とを比較し、読者がマンガの知的内容を書き表すためのメタデータ記述項目について提案した。今回の調査の結果からは、マンガと小説の知的内容を記述する際に必要な項目には差がなかった。そのためこの基本セットはストーリー作品の知的内容を表現するためのモデルとして応用できるものである。また、マンガ情報を扱う上で登場人物のようなキャラクターに関する情報を適切に表現するための仕組みも今後必要になると思われる。

筆者らの研究室で開発しているマンガメタデータスキーマは FRBR の考え方をベースにしている。FRBR の第一グループの実体群を適用すると、本稿のケースでは Wikipedia の作品記事に多く見られた「派生作品」を、同一の作品であるが表現手法が違うとみなすための視点を与えるために適用することができる。また、小説にいくつか見られた「訳」に対しては、同一作品を表現する言語が違うという視点をもたせることができる。一方で、主題のための枠組みである第三グループの実体群は、本稿のケースでは「Person」が「登場人物」を表すことを除いて目次の大項目から抽出することはほとんどできなかった。多くの記事ではそれ以外の実体についての項目を持っておらず、「あらすじ」やその他の項目の中に書かれた記事本文に内在している。マンガ作品の知的内容を読者が書き表す上では、「Person」に関する情報が重要なのは今回の結果からも間違いないが、FRBR で提示されたユーザタスクである作品の発見や識別のためには他の 4 実体に関する項目が必要である。また、Fiction Finder で用意されたメタデータのような検索に特化したメタデータスキーマも参考になるであろう。マンガ情報を総合的に扱うメタデータスキーマを提案する上で、様々なユーザの利用タスクに対応することは必要不可欠であり、知的内容に関する記述の充実が求められる。今後それらを実現することも視野に入れたい。

参考文献

- [1] “メインページ -Wikipedia- “. available from <<http://ja.Wikipedia.org/wiki/>>
- [2] 横田亜蘭 “マンガメタデータとその作成支援ツールの開発”. 筑波大学, 2008, 2007 年度卒業論文.
- [3] “漫画 -Wikipedia-”. available from<<http://ja.wikipedia.org/wiki/漫画>>
- [4] えんぴつ倶楽部. “漫画バイブル 5 コマ割り映画技法”. 東京, マール社, 2007, 264p. (ISBN: 4-8373-0518-7)
- [5] “ウィキプロジェクト 漫画” available from
<
http://ja.wikipedia.org/wiki/Wikipedia:%E3%82%A6%E3%82%A3%E3%82%AD%E3%83%97%E3%83%AD%E3%82%B8%E3%82%A7%E3%82%AF%E3%83%88_%E6%BC%AB%E7%94%BB>
- [6] ”Functional Requirements for Bibliographic Records Final Report”. 1998. International Federation of Library Associations and Institutions. (online), available from
<<http://www.ifla.org/VII/s13/frbr/frbr.pdf>>
- [7] 和中幹雄, 古川肇, 永田治樹. 書誌レコードの機能要件—IFLA 書誌レコード機能要件研究グループ最終報告. 初版. 東京, 日本図書館協会, 2004, 121p. (ISBN: 4820403303)
- [8] ”Working Group Functional Requirements for Subject Authority Records (FRSAR)”. 2005. International Federation of Library Associations and Institutions. (online), available from
<<http://www.ifla.org/VII/s29/wgfrsar.htm>>
- [9] ”Functional Requirements for Subject Authority Records (FRSAR)”. 2006. Marcia L. Z. et. al. (online), available from <<http://www.slis.kent.edu/~mzeng/FRSAR/FRSAR-ifla06.ppt>>
- [10] “FRSAR Update”. 2007. Maya Z. et. al.,(online), available from
<<http://www.slis.kent.edu/~mzeng/FRSAR/FRSAR-IFLA.ppt#282.1.FRSAR Update>>
- [11] 野村聡美. “FRBR の実体モデルに基づくマンガのためのメタデータスキーマ”. 茨城. 筑波大学, 2008, 研究資料.
- [12] “OCLC Fiction Finder –splash“ available from <<http://fictionfinder.oclc.org/>>